



その
感情の
名

DOUJIN
R18
ADULT ONLY

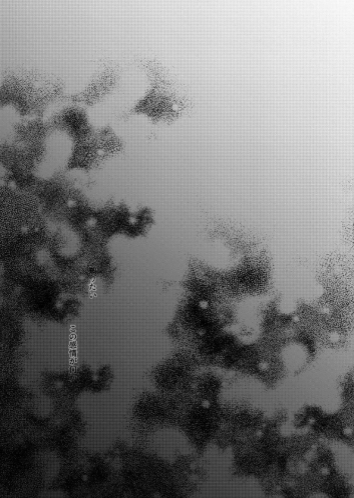


※注意※

ロボミZ後、デスロウ復活世界線
SSRシロウのフェイトエピソードを
踏まえた内容になっております

また非公式設定、独自解釈、オリキャラ
等もございますので、予めご了承ください







パァン

待たせたな!

コッ

新しいヤツ
持ってきたぜ

遅いさ
寄越せ

あっ





誰もが壊滅運との闘いを
受け入れ始めた頃、
ケンジが突如現れた為の
ケンを消した事と



デスロウが自らを
切り刻んで
散っていった
あの日から
少し経った頃



「恐ろしい事だ」と



壊滅帝国の
あつた場所の



ケンジが示した
場所へと
あいつの遺つた
向かう時

まるで
引き寄せられる
ように体が動いた



そこには
確かに
あいつが居た



…デスロウ

何故デスロウが
蘇ったのか

傍らの遺体が
誰なのか

気になる点は
デスロウがあつたが、
ひそかに研究も出来ず、
遠くまでいく事に
なつた

目を覚ました
デス口ウ自身も
何故自分が
蘇ったのか
よかったです
うからな
たいか

戸惑いながらも、
警戒する意思は
無いように見えた

僕は反対だ

今すぐにでも
あいつを処分
するべきだ

だが以前のよう
な力を再び取り
戻さない
保証もない

確かに
ヤツの増
殖に比
べれば
以前に
可変
らしい
モン
だ

ケンシ...



それに、これは俺達にとっても關つても無いチャンスだと思うぜ？



その時の為の俺達だろ

何かあっても俺とロボミが居る



わかってる

ただ、俺達はまだ壊獣について知らない事の方が多すぎる

デスロウを通じて一つでも壊獣に得られるの知識が、現れたとしてもきつと対処出来る筈だ



チャンスだつて？

何を馬鹿な

壊獣の存在が人類にとつてどれだけの脅威か身に染みて知って居る筈だろう！？



それに…

あいつの中で
どんな変化が
あつたのかは
わからないけど

自身も人類も
巻き込んで
消えようと
したのに

己の最後の決断を
曲げてまで
自爆を止めた



…そんな
あいつを
俺は信じたい



…こんな事
本人に聞いたら
怒られそうだな
あはは



…あの犠牲が
人類を守つた、
そう言いたいのか？



君までの経験からは
理解してる

僕らが何を言おうと
そう簡単に
折れるような
ヤツじゃないってね



わかったよ



だが

僕も対峙専用として
曲げられない
ものがある



ひとつ、
斥力場で隔離された
一室から対象を
歩も出さない事

そこでケンジから
提示された条件がら



ひとつ、
もしも対象が暴れたり
人類に危害を
加えようとした際は
遠やかに処分する事

ひとつ、
現状デスロウに
対応出来る人物は俺
もしくはロボミしか
居ない

どちらかが
必ず対象を
監視する事



…僕は忠告
したからな



選ぶのは君達だが、
もしもこの条件が
満たされない場合は
敢るべき対応を
取らせてもらう

ああ、
わかってる



……って事で、
ちよつとばかし
窮屈だと思っけど
我慢してくれ



……
後悔するなよ



ありがとう
ケンジ



……まったく
笑い種だな

元々は
人類を滅ぼし
種の存続の為に
生まれた俺が

今やその敵対種に
同調され
飼育殺しの身とは



あとコレ
マリエさんが
用意してくれた服！

前に誤発注
しちゃった
俺の服の色違いを
引っぱり出して
きてくれて……

デスロウ？



：貴様の思考は
理解出来ん

これが種々の存在への
対応か？



否定しようが
ないな

でも、せっかく
出る事が
出来たんだ

見たい物があるなら
したい事があるなら
可能な範囲で、ただど
お前の顔いも
出来るだけ
聞き入れてやりたい



聞いて
言われよう
だな……



場獣の情報
が
口を割る
気は無いが

勝手に実験
でも
いいだろう

あの古代人なら
喜んで実行する
だろう事を
何故行わない



そんな深く
考えるなよ

確かに
情報の
欲しがる
お前の
傷付け
ける気
は無いよ



こっちの都合で
不都合を
強いてるんだ

だからどんなに
小さな事でもいい

何かあったら
言ってくれ



……

……ここは遠慮だ
何でもい
書物を齎越せ



うーと……
どうやら……
こんな山に……

つて事で、
俺は暇を見つちや
こうしてデスロウに
本を届ける事に
なつたワケだ



デスロウ、
一応借り物なんだから
大事に扱ってくれよ

し……
し……
せいか……

黙れ









「そういや、デスロウが復活した原因はもう分かったのか？」



「詳細が分かったら改めて報告させてもらうよ」

「って事はさっきの報告の為にわざわざ……？」

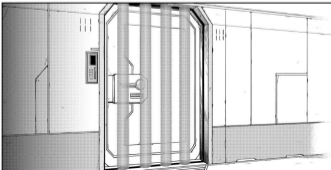
「アハハハハ、どうも、お礼です」



「いや、まだ調査中だ」

「僕も四六時中動き回れる程エネルギーに余裕が無いもんでね」

「他の塊の警戒をいめる訳にも」







し、視線が…



その書物に
書いてあった

「愛」とは
一体何だ

ロケ出す
のもはば
かられる
官能小説

こ、こんな本
いつの間に
混じって…!?



人によって
愛情の芽生え方や
在り方は
違うもんさ



愛にも
色々ある

そういう
行爲から始まる
愛情もあるだろうが
限らない
限らない

執着する事が
愛だって言う
奴も居る



あ———
一体何してんだ
ろうな———
こりやあ———!!?

俺にも
わかんねえな
———ツッ!?

近い近い近い近い

いやま
面白い
なまかなま
田中……
R18



ただの見面識か
なのかな？

アキラの調査も
終わって、アキラも
帰って来た。アキラは
アキラの調査も
終わって、アキラも
帰って来た。

もしやして……

……さん

シロウさん

どうしたの？
来るなり
ボーーーーとしちゃって

それにしても
凄じ数の本ね

ああ、いや……
少し考えしてた
だけでして

アキラ
そう言えば今
研究艇じゃない
んだっけ！

戻ったら改めて
デスロウについて
聞いてみようか

ああ、ちょっと
騎空団の人達に
借りたんですよ



なかなか
大漁じゃない

それで
こつちの人達
から借りてるのね



何に
すまっ

じゃあ
オススメ

でも、もう
研究艇にある本は
殆ど読み
尽くしちゃった
みたいで！

何でもいいから
本が読みたいから
つてヤツが研究艇に
居るんですけど



ふふ、学ぶ事に
貪欲なのね
その人

ありがとう

この器入団した
カシウス君に
ちよつと似てるわ

この動物は
何ぞ
に何を志望する
と海をひきかかすのか
髪は黒味深し
マリー...



アルタイルさんや
アルシヤちゃんから
おススメをいくつか

ラカムさんからも
騎空艇に関する本を
借りられて；
これで満足
してくれりや
いいんですけど



あーら
どうしたの？
浮かない顔して



高橋、か…

ただ
知りたいだけ
なのかな…



…そいつに
聞かれたんです

愛ってのは
一体何なのか



アッ



出来る事なら
教えてやりたい
けど、俺には
愛が何なのかを
言葉で表現するの
が
難しくって

どうにか上手く
伝えられたら
いいんですけど



…これは
アタシの個人的な
話なんだけどね



アタシも、今のアナタ
みたいに悪い悩んだ
ことがあったの

悩んで悩んで
壁にぶつかって
それでも悩んで…



皆とつても真摯に
向き合ってくれたわ

でもそんな時に
この櫃の皆が
気付かせてくれたの

愛がどうい
うものなのかを



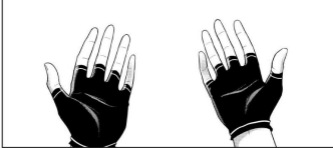
その時の経験は
今でもアタシの
宝物なのよ





シロウさんなら
大丈夫よ







あの遺体の
身元も判明した

エルステ帝国時代の
魔晶研究者の一人で、
研究中の魔晶を
追いつか持ち出して
追われてきた

…まあ、
帝国が王国へと
変わつたせいも
その存在も
忘れられていた
権子だから

シエロカルテが
属なかつたら
元エルステの人間
だつた事も
分からなかつた
だろうね

で、そいつが
魔晶を持つて
逃げた理由も
目的も不明

だが、あの傭人が蘇つて
今も生きている現状
大体の予想はつく

…壱獣の復元？
そんなまさか

まったく、彼女の
情報収集能力の
高さには恐れ入るよ

可能性は
否定出来な
い間
に
僕が眠つて
いる間に
同じような
出来事があ
つたからな
らう

単独犯か否
かは
定かじやな
い
協力者や仲
間が
居るとい
う
痕跡は無
かつた

まあ、当人は
既にあの世
に渡った
野望は潰
えた
と
考
え
て
い
い
だ
ら
う

今後、似た案件が
出ないように
警戒すべき
ではあるがね

ただ…

…ただ？

…そいつが
持ち出した
魔晶、
随分と不安
定な代物
だつたら
しくてね

色々と話を聞いて
納得がいったよ

あの河の
壊れとしての力が
随分と強い事に



……近い内に
あいつは
消滅する



……



勿体ぶらずに
救えてくれ

……
何が言いたい
んだよ、ケンジ



ぞ

めっ



近肉に肉体を
維持出来ること
消滅する
なるなるなるなる



！現にありの
臓腑反応
をデータ化
して分析
する

正体不明の
提供されたデータ
元は……



君ならこう言うんだろうな

どうにか救う手立ては無いかと



使われた魔晶は既に力を失ったので時を戻すことが出来ません

とあるは、二枚の魔晶が別々の世界に送られるのが元々予定されていたが

でも予備の魔晶が壊れた事によって、元々の予定通り



元魂が奪われてしまったので、どうにか復元するにしよう

それ不安定な魔晶を起動させたから、そが不安定な魔晶を



ソゴラの時は残り組の多からが復元出来ただけで

あいつの場合一万分の二の確率で切り分けられた体の多くを紛失



……
そう、か……



たとえ同性能の魔晶があつたとしても復元のノウハウを知る男は既にこの世の者じゃない

方法を探ろうにも時間が無い八方塞がりだ





残された時間の少ない
あの環境の人のために
研究所のみのならず
足を伸ばすまで
書を集めて



だが、君も薄々
気付いては
いたんだろうか？



もしかしたらと
思いながら

ダスロウを
見つけたら
あの時から



そんな誓はないと
心のどこかで
自分に言い聞かせていた
だけなのかもしれない



そうかもしれない



…君が何故そこまで
あの増人に入
れにはわ
からな
い

…だが、
残された時間
はそれ程
多くは
ない







もうとっくに
気付いて
いるんだろうが

くだらない同情も
哀れみもいらん



馬鹿馬鹿しい



壊滅細胞が足りず、
肉体を維持
出来ていない

最早何をした
ところで
無駄だ



……どうにかして
やりたかった

でももう俺のカリヤ
どうしようもなくて

どんな形であれ
蘇る事が出来た
つてのに、また
消えちまうなんて



お前はそれでいいってのか？

このまま消滅するかもしれないのに……!!



……言っただろう最早無駄だと

自分の体の事は自分が一番理解している



……



……わからない

何故貴様は
そうまでして
俺に構う？



……

……お前は、
大事なものを
守る為の
力をくれた

誰かを
守る為の
戦う力を





俺に出来る事は
もう本当に
何も無いのか



俺が何もし
出来な訳のねが



嘴の細胞が
足の皮に肉体を



何かあるはずだ

かじ



…なんだ

……
なあ、デスロウ



一度植え付けた
壊れた細胞を
戻す事は可能か？

貴様、何を
考えて…？

肉体の維持に
必要細胞が
いるんだろう？

なら

……





デスロウが
死んだ時に俺の中の
魂獣細胞は消えた、
って前にケンジが
言ってたけど

お前が植え付けた
魂獣細胞は
今もまだ俺の中で
生きてる

わかるんだ

…何を言っ
てるのか？

一度植え付けた細胞を
引き剥がす事が
どういう事か



…上手くいく
保証は無い

植え付ける事は
あっても
回収する事は
一度も無かつた
からな



その言い方だと、
可能なんだな？



可能性はゼロじゃ
ないんだろ？

ならば試す
価値はある





……!!



…その結果
死ぬのかも
しれなくてもか



お前は死が
恐ろしくは
ないのか



…死ぬのは
怖いさ

…でも



救える筈の
命を救えずに
生きる事も
俺は怖いんだ



人間は皆
死を恐れる

死を恐れて
逃げ惑いて

怯え

泣き叫ぶ様を
何度も見てきた

それに…
あの時の
お前の気持ちを

想いを知って
しまったから

俺は何故

アイリを庇った

俺はお前を
救いたんだ、
デスロウ

「ヒトを守る」と言う
選択をしたお前を、
このまま見殺しに
なんて俺には
出来ない











です、ろ…



まだ伝えられて
ない事が
沢山あるんだ



だから

もう少しだけ





つくづく
うるさいヤツだな
貴様は



デスロウ…!!

…まったく

何をどうやったら
おんげが安定
するんだか…



まあいいぞ

僕の忠告はあまり意味はないかもしれないが、な



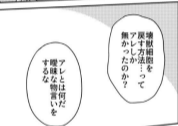
僕は引き続き警戒と監視を続けるだけだ



その感情の名は

発行日:令和1年 8月25日
発行者:クロノスタシス/かずっぺ
Pixiv:522930
連絡先:prometheus4k@gmail.com
印刷:株式会社 栄光

※本書のネットオークションへの出品、無断転載、複製はご遠慮ください





今でも時々
思い出してしまふ



はじめて...

う...
そ、そうか...

古代兵器だ

貴様のはらわたを
引き裂いても
回収しても
良かったが

そうなるにあの
古代兵器共が
煩いからな



あの時の熱さと
頭の灼ける感覚



何処がおかしい

それに、スロウに
描き直して
返してからずっと



はっ
ぎゅっ



です、ろ…?



くい



足りないものを
埋めようと

ほしい

ほしいと
声が聞こえる



それが本能と
いうものだろう

















増殖細胞を
回収した
あの時

生命維持に
関わる器官と
結びついてい
たものを含む
細胞を回収し
ていければ
この男を救う
ことも可能だ
った筈だ



なのに



何故俺は
そうしなかつた？

使徒も
何者かも
無い

その場の意思など
お前もなしに
世下の勝手な都合で
蘇らされ

生きる意味も
理由も
最早無いというのに

それでも尚
お前はこの世界で
生きろと言われた

